

キャリア教育の推進について

〈課題〉

- 子供たちの職業観、県内の就職・労働状況、求められる人材の把握が不十分
 - ・令和4年3月新規高等学校卒業者の就職状況（令和4年3月末現在）
千葉県 94.6%（卒業者数 46,879 人 就職希望者数 5,043 人 就職者数 4,772 人）
※全国平均 97.9%
 - ・高卒就職者の3年以内離職率（平成31年3月卒業生）
千葉県 38.2%
※全国平均 35.9%
※離職率は離職した都道府県で計上されるため、必ずしも千葉県で採用された者の離職を意味するものではない。
- 〔 高校卒業者の就職率低下や早期離職率の高さ等の原因把握が不十分。
労働市場を踏まえたキャリア教育が行われていない懸念がある。 〕
- 産業・経済の進展、社会の変化の中、子供たちが、様々な職業・職種についての理解を深める機会が不十分
- 子供たちが、教科等で学んだことを生かし、自己理解を深め、目的意識を持って職業を選択する力を育む取組が不十分
- 今後必要とされる進路指導等についての教職員の知識が不足

〈施策の方向性〉

- 【実態把握】
本県の子供たちの職業観等及び企業の雇用等に関する調査(R5年度新規)
- 【職業理解の充実】
インターンシップをはじめとした職業理解を深める取組の充実
- 【自己理解に基づいた目的意識と社会で必要とされる資質能力の育成】
自己の適性を認識し、主体的にキャリアプランニングを図る力や、課題対応能力、人間関係形成能力の育成
- 【教員の質の向上】
時代に即した実践的な進路指導、産業と雇用の動向等についての教員研修等の充実

〈これまでの会議での主なご意見〉

- 理系人材が求められていると言われているが、むしろ文系にシフトしている。労働実態を踏まえた教育の見直しが求められると思う。
- 働くことが本当に楽しいということの教育が重要。
- 先生方の専門性を生かし、商工部門の知恵ももらいながら教材研究をして教育活動の充実がなされることが重要。
- 特別な能力を伸ばすところに視線を向けることが大事。

- 早期離職や労働市場とのミスマッチに関する調査は、まずは早期離職者から実施するなど段階を経てはどうか。
- 子供たちがなぜ自分は働くのかということを確認しながら育っていく、その仕掛けが非常に重要。
- 学校教育の場、その携わる教員を含めたスタッフの多様性をどのように維持していくのか。研修や、体験機会をどのように作っていくのか。
- 高校の進路指導の先生の意識改革、それぞれの生徒の個性に応じた的確な進路指導をお願いしたい。
- 本気でキャリア教育を進めていくなれば、労働と対価を肌身で感じられる機会も守っていかなくてはいけない。

キャリア教育の推進について

1 令和4年度実績

【職業理解の充実・自己理解に基づいた目的意識と社会で求められる力の育成】

(1) ジョブカフェちば事業

若年者の正社員としての就労支援や、若年者と企業との交流イベントを通じたミスマッチの解消、若手人材の採用・定着を図るための事業を実施

- ・ 県立高校にて高等学校向けセミナーを 29 回実施（16 校、延べ 1,752 名参加）
- ・ 旭農業高校にて教職員向けセミナーを実施（5 名参加）
- ・ ジョブカフェを通じた求人情報サイトを 3 月から運用予定

(2) 中小企業人材採用・魅力発信サポート事業

千葉県商工会議所連合会が行う企業と教育機関との総合交流事業の支援や人材採用・定着に向けた研修を支援し、学生の就職・地元定着を図るための事業を実施

- ・ 高校進路担当と企業採用担当の交流会（就職情報交換会）を開催
（参加校 23 校、参加企業 58 社）
- ・ 企業担当者が生徒の前で自社プレゼン行う企業の魅力発表会を 3 回実施
（参加校 3 校、参加企業延べ 13 社）
- ・ 企業 PR 動画の配信を千葉県高等学校教育研究会進路指導部会にて進路担当職員へ紹介

(3) ワークルール講座

実際の就労に役立つ労働法の基礎知識を学ぶ機会を提供するため、社会保険労務士によるワークルール講座を県立高校 12 校で実施（1,188 名参加）

(4) ちば地域若者サポートステーション事業

若年無業者等を対象に、様々なプログラムで就職に必要な力をつけ、就職まで継続的な支援を行う。令和4年度は高等学校定時制課程において、働く意義の理解やビジネスマナーなど、プログラムの一部を校内進路ガイダンスとして開催

（千葉商業高校、54 名参加）

(5) 若年者への職業訓練の実施

各高等技術専門校において、中学卒業者の受入れを行い、就労に向けた技能の習得を支援（257 名入校、うち中学卒業生 4 名）

(6) 未来の名工チャレンジ事業

各高等技術専門校において、若年者のものづくり分野への進路選択・職業選択のきっかけづくりを目的として、小・中・高校生を対象とした体験会を実施

（82 コース、269 名参加 うち小学生 55 名、中学生 29 名、高校生 161 名）

(7) ものづくりマイスター事業

厚生労働省が認定した、高度な技能と実務経験を有し技能の指導ができる「ものづくりマイスター」を活用し、工業系高校での実技指導を実施

(派遣数 13 校、約 950 人参加)

(8) 千葉県介護職の理解促進・魅力発信事業

児童生徒や保護者に対し、給与等の処遇やキャリアプランを含めた介護職の理解促進を図るための事業を実施

・介護フォーラムを開催〔9月10日〕 (見逃し配信含め計 1,115 名参加)

※当日の様子を 10 月 15 日 (土) にNHKで全国放送

フォーラムで放映した映像をもとに、小・中・高生を対象とした介護職についての学校教材を作成

(9) 課題探究型キャリア教育ゼミの実施

地域課題の解決について探究するゼミを設置し、生徒が自己の役割・特性を理解しながら主体的に課題解決を図る能力を育成する。専門学科を拠点校として、地域の複数の高等学校がグループを形成し、それぞれの専門性を生かして地域や社会の課題解決に取り組んだ。令和 4 年度は県内 3 グループにおいて、それぞれ外部講師による講義や助言を受けるゼミを実施し、年度末 (令和 5 年 2 月 2 日) に成果発表会を実施。

(10) 職業理解のための映像教材作成

中・高校生が、産業や職業についての理解を深め、職業意識の形成や主体的な進路選択に役立てられるよう実社会で働く人々のドキュメンタリー動画を制作。

職業編 (8 分野)、学科編 (4 学科) についての動画を制作し、生徒用ワークシート、活用場面例とともに県ホームページに掲載した。活用は令和 5 年度から。

(11) キャリアデザイン講演会の実施

起業家や IT 分野など新規発展を遂げている分野の著名人による講演を実施。講演内容は映像を県内高校生に限定公開。

(12) 高校生の就職支援

高校生の主体的な職業選択及び円滑な就職に資する、生徒対象の講演会や教員対象の研修会、インターンシップ保険費の補助や、インターンシップ等の受入れを行う事業所に係る情報提供を実施 (指定 33 校 35 課程)

※職場体験 (中学生)、インターンシップ (高校生) の実施率

R1 年度実績 (コロナ前) 公立中学校 96.6% 公立高校 89.6%

R3 年度実績 公立中学校 18.9% 公立高校 36.5%

→ 特定の現場を体験するに留まり、様々な業種や職種に触れる機会にはなっていない。実施率もコロナ前の水準には戻っていない。

(13) 専門高校の生徒や教員による体験授業の実施

小中学生のものづくりや自然科学分野に対する興味関心を高めるための特別授業を県立高校の専門学科の教員と生徒が実施 (教員登録数 149 名)

※講座例 ・工業科：工作機械 (旋盤等) を使用したものづくりを体験

・理数科：液状化現象の再現実験などの地学に関する実験

【教職員の資質向上】**(14) キャリア教育の手引きの改訂**

小・中・高校における系統的なキャリア教育の実践に役立てるため、発達段階に応じたねらいや各教科における実践事例等を示し、教員がキャリア教育のポイントを理解しやすい資料を作成

※各校種の進路指導経験者がワーキンググループにより、異校種間の連携やキャリアパスポートの活用事例等の掲載内容について検討し、完成後は県ホームページで公開

(15) キャリア教育教員研修の実施

教員が新しい時代に必要なキャリア教育について理解を深めるとともに、本県産業と雇用の動向等についての理解を深めるための教員研修を実施

2 令和5年度新規・拡充事業**【実態把握】****(1) キャリア教育の推進等に係る調査研究事業【新規】**

高校卒業者の就職率低下や早期離職率の高さ等の問題の原因分析を行い、今後のキャリア教育に係る政策形成上の参考とするため、中高生、大学生、社会人を対象とした職業意識に関する調査、企業を対象とした高校生の雇用等についての調査を実施する。

子供たちの職業観や県内の就職、労働状況の実態を把握することにより、各発達段階に応じた効果的なキャリア教育施策に結びつける。

【職業理解の充実・自己理解に基づいた目的意識と社会で求められる力の育成】**(2) ジョブカフェちば事業**

若手人材の採用・定着に関して、人員体制を強化するとともに、工業系の学校と企業の各種交流の場の設定等の支援を実施する。

(3) 千葉県介護職の理解促進・魅力発信事業

教材を用いた模擬授業の実施、教材を保護者・教員に周知

(4) 普通科高校におけるキャリア教育実践プログラム研究事業【新規】

普通科高校の生徒のキャリア意識を醸成し、目的意識をもった進路選択や学習への取組につなげるため、自らのキャリアプランニングの考え方や自己分析等、これからの産業構造の変化に対応した職業等について学ぶ実践的なプログラムを実施する。

(5) 課題探究型キャリア教育ゼミの実施

探究の過程で、課題に関連する企業や官公庁等における高校生のインターンシップを実施する。

(目 的) 外部との連携に基づいた質の高い探究活動が見込まれるとともに、実社会における体験を通して、参加生徒のキャリア意識の向上を図る。

【その他】**(6) 高等技術専門校の機能強化に向けた広報事業【新規】**

高等技術専門校の入校促進のため、ホームページのリニューアル、工業系高校との連携による共同パンフレットの作成・配付など、情報発信を強化する。